

①富士山登山中（チャレンジアドベンチャー富士登山体験交流）。②現地でソーラン節を披露（マレーシア海外派遣事業）。③理想のまちづくりについて意見交換（子どもまちづくり会議）。④ビニールに入れた具材を湯煎してカレーを作る（防災キャンプ）。⑤原爆ドームを見学（戦後80年広島平和記念式典派遣事業）。⑥ホストスクールで現地生徒とランチパーティー（オーストラリア親善大使海外派遣）。



心が動いた、その先に――。



■町長 海外での交流を通して、世界

の多様さや人と人がつながる力を感じてもらえたと思います。

さて、同じ一年の中で、まったく違う形の体験に挑んだ人たちもいました。国や文化を越える挑戦とは別に、今度は自然の大きさと向き合い、自分自身を試す富士登山に挑戦した皆さんの話を聞かせてください。

■町長 アドベンチャー富士登山体験交流（以下「富士登山」）：実際に富士山に登つてみて、人の力は自然の前ではとても小さいと感じました。高山病や天候の変化など、思い通りにならないことも多く、普段の生活がどれだけ恵まれているのか、改めて考えるきっかけになりました。

一方で、昨年は戦後80年という節目の年でもありました。次は、日本に生きる私たち自身の歴史と向き合った皆さんの話を聞かせてください。

■町長 とても大切な気づきですね。一方で、昨年は戦後80年という節目の年でもありました。次は、日本に生きる私たち自身の歴史と向き合った皆さんの話を聞かせてください。

■町長 戦後80年広島平和記念式典派遣事業（以下「広島派遣」）：広島では、資料館に入った瞬間、言葉が出なくなっていました。写真や展示を見て、原爆が人の人生を一瞬で奪ったことを実感しました。ショッキングで目をそらしたくなる場面もありましたが、教科書だけでは知ることができなかつた核の恐ろしさを感じました。

また、自分の意見を出すことに苦手意識がありました。会議の中で積極性が身についた気がします。

■町長 マレーシア派遣：言葉や文化の違いがあつても、直接話して距離を縮める経験ができたので、外国人に話しかけることへの抵抗がなくななりました。

■町長 富士登山：自然の厳しさの中で、当たり前だと思っていた生活が、当たり前ではないと気づき、食事や睡眠、呼吸一つひとつのがん難みを実感しました。

■町長 広島派遣：体験した事実や感じた思いを、次の世代や身近な人に伝えていきたいといつ氣持ちが芽生えました。

■町長 ありがとうございます。それぞの経験は内容も舞台も違いましたが、共通していたのは「自分で考え、感じ、次にどう動くかを見つけた」という点でしたね。守られる側から支える側へ、知らなかつた世界へ踏み出す勇気、当たり前を見直す視点、そして知ったことを伝えたいという思い。これら変化は、体験が終わつた瞬間で完結するものではありません。

では、この気づきや感動を、これから生活や未来にどうつなげていくのか。次は、皆さん一人ひとりの「これからについて聞いていきます。

■オーストラリア派遣：コミュニケーションの中で、授業ではできていないと思っていた英語が通じず、悔しさを感じましたが、その経験が今は「本当に使える英語を身につけたい」という前向きな原動力になっています。

■子ども会議：年齢や立場の違う人と意見を交わす中で、間違いを恐れずに話すことの大切さを学びました。

町内児童館のイベントを子どもたちが企画！

町内の児童館では、利用する子どもたちがイベント内容を企画したり、司会などの運営を子ども自身が行うなど、子どもが主体になっています。



藤久保地域拠点施設（愛称：ルミナ）子育て支援ゾーンの遊具選定！

今年9月にオープン予定の複合施設「ルミナ」に設置する、インクルーシブ遊具の選定に藤久保小学校児童の意見を取り入れました。



子どもにやさしいまちづくり 合同報告会を開催！

今回の座談会に参加した6つの事業の報告会を藤久保公民館で開催しました。PVはYouTube（下記コード）で公開中です。



令和6年12月16日に、日本ユニセフ協会CFCI委員会から「ユニセフ日本型CFCI候補自治体」の承認を受けました。町では、令和8年度の「ユニセフ日本型CFCI実践自治体」の承認に向けて、まちづくりに子どもの意見を取り入れて、反映できる取り組みを行っています。

